［第 168 回藤樹人間学塾のご案内］



皆さま　　2025 年 11月

主　催　NPO法人高島藤樹会

■ 日　時　2025　年 12　月　6　日　（土）　15時～17 時
■ 場　所　高島市安曇川公民館（高島市安曇川町田中89）☎0740-32-0003
■ テーマ　「藤樹先生に学ぶ人間学」
　テキスト　熊沢蕃山著・伊東多三郎現代文訳『集義和書』（中央公論社）p.249～
■ 塾　長　　田中 清行（090－1026－7882）



2025 年 11 月 1 日（土）、藤樹神社社務所で第 167 回藤樹人間学塾を開きました。京都から 1 名、大津から 1 名を入れて 7 名の参加でした（うち女性 4 名）。

■　テキスト
『中江藤樹・熊沢蕃山』（中公バックス日本の名著）

■ テキストの見出し
「集義和書」巻八　義論の一　帝王の天下武家に渡る、公家の威髙、公家の天下は返らず、を輪読し、配布資料も説明。

■ 今日のポイント

- 帝王の天下武家に渡る…なぜか。帝王（天皇）が謙徳を失ったため地方を治めた国主が従わず、武士の棟梁に従った。武家の天下は 500 年の間に天命が変わったのは 6、7度。源頼朝→北条氏→足利尊氏→織田信長→豊臣秀吉→徳川家康。代が短かったのは富貴が年々まさり、驕りが増して昔の公家のようになった。
- 公家の天下は返らず…日本ほど礼楽の道が正しく風流な国はない。それは皇室があるため。皇室があって武家の棟梁が尊敬し、君臣の義を天下に教えたことにより、天下が治まった。
- 徳川家康を鍛えた数々の苦難とそこから導かれた遺訓…家康は、幼少期の人質生活、妻と長男信康の処刑、駿河から江戸への国替えなどの窮苦に何回も直面している。それに耐え、そこから導き出されたのが遺訓である。
- 平澤興『論語を楽しむ』…徳川家康は日本が生んだ世界的な人物の一人だ。家康の遺訓「人の一生は重荷を負いて遠き道をゆくが如し…及ばざるは過ぎたるよりまされり」は将軍が将軍になる子孫に言っている言葉である。
- 名を成すは常に窮苦の日にあり（致知）…人が成功するのは突然成功するのではない。必ず窮苦の日があって、それによって鍛えられて成功する。だから、成功するかどうかは窮苦の日の過ごし方で分かる。

■ フリートーキング

- 「日本は皇室の権威と武家の権力が絶妙のバランスをとって国を統治してきた稀有な国だと思う」
- 「自然環境を守ることは大事だと思うようになった。学校で地域住民が児童と対話するトークフォークダンスをやっているが面白い」
- 「もっと早くからこういう塾で学んでおけばよかった。子育てで見守るのは難しい」

などの意見をいただきました。ありがとうございます。
皆で学ぶと議論が深まります。学ぶは愉し！難しいところも資料を用意して分かりやすく解説します。参加費無料です！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。